

論壇

北陸、金沢に住んで

石川県立大学生物資源工学研究所 特任教授

西澤直子

石川県立大学に勤務することになり、金沢駅近くに住んで8年余りが過ぎました。太平洋側にしか住んだことがなかった身には、最初の一年は想像を超える経験の連続でした。まずは雪。平地でも雪は決して静かに降り積もるのではないことを知りました。地鳴りのような雷とあられを伴って激しい雪です。初めての時は、雷とあられが屋根や壁に当たる音に、家の外で誰かがチェーンでも振り回しているのではと驚いたほどです。雪が降った日には大学の玄関は膝までの深い長靴、それも上部を絞ることのできるものが並び、さすがと思いました。とはいえ、冬の雷は北陸の名物、「鰯起こし」とも言われ、寒鰯の季節の到来を告げるそうです。通勤に使うJR西日本の北陸本線は東京方面に向かうのが「下り」で、京都に向かうのが「上り」です。最初は乗る方向を間違えたかかと思い、駅員さんに尋ねると「この辺では、京が都ですから」と返ってきました。夜には閉まってしまふ待合室や無人となる駅にも今ではすっかり慣れました。

「農学を志して」と題する講義を石川県立小松高校の三年生にする機会がありました。小松高校は県下でも有数の進学校で、スーパーサイエンスハイスクールにも指定されました。小松市丸内町二の丸にある学校は、三代目加賀藩主前田利常の隠居城として築かれた小松城の跡地に建てられたもので、校内には天守閣の石垣も現存しています。また、松の木陰には前身となった旧石川県立第四中学校のピンク色の木造校舎も記念館として残されています。歴史の古い学校の由緒ある雰囲気、在校生の恵まれた環境を感じました。しかし、さらに驚いたのは、新しい現在の高校の校舎に入ったときです。その玄関には、吉田美統氏の「釉裏金彩更紗文壺」と三代徳田八十吉氏の「深厚燿彩線文壺」と、二人の九谷焼の人間国宝の華やかな素晴らしい作品が飾られているのです。吉田美統氏は高校3回卒、三代徳田八十吉氏は高校4回卒であり、いずれも創立百周年記念美術展の寄贈作品であると聞きます。さらに、卒業生から同窓会に寄託され学校に寄贈された人間国宝による作品を始めとして、絵画も含め200点を超える素晴らしい美術工芸品等が校舎内のいたるところに展示されており、さながら美術館のようでした。生徒たちは、日常にこれらの素晴らしい作品を目にし、その美しさを感じているわけです。多感な高校生にとって、常に「本物」と接することが最重要との思いが伝わってくる素晴らしい教育環境です。

2015年3月14日には、長野新幹線の延伸により金沢までの北陸新幹線が開業しました。ガラスとアルミ合金からなる巨大な天井ドーム「もてなしドーム」と、能楽・加賀宝生の鼓をイメージした米松の構造材による鼓門が織りなす金沢駅の玄関の美しさはこれまでも高い評価を受けていました。米の旅行雑誌「トラベル・レジャー」の「世界で最も美しい駅」に、日本からはただひとつ選ばれたそうです。新幹線の開業と同時に改装された金沢駅舎はさらに美しくなっています。

駅コンコースには、12対24本の能登ヒバの門型柱が並び、その内側には人間国宝や日本芸術院会員などの、石川県を代表する作家たちが製作した木工芸、九谷焼、輪島塗、山中漆器、加賀象嵌等々

の大型のプレートがはめ込まれています。そのひとつひとつが大変見事です。また、駅中心部の通路には十代大樋長左エ門氏による幅8 m高さ4 mの大きな大樋焼の陶壁が飾られています。これらは切符なしでも鑑賞できる工芸品ですが、多くの人が気づかずに通り過ぎているようなのでとても残念です。鑑賞するためには、入場券あるいは乗車券が必要ですが、新幹線の構内も素晴らしい伝統工芸品の数々で彩られています。待合室には30品目236点の伝統工芸品が小さな丸窓に納められて壁面を飾っています。代表的な九谷焼や輪島塗、加賀友禅、加賀毛針を始めとして、普段はなかなか目にすることのない加賀獅子舞頭、珠洲焼、加賀仏壇なども見ることができます。各ホームの待合室にも、数は少ないのですが壁面に納められています。これらは、加賀藩五代藩主の前田綱紀が工芸技術の育成に努め、各種伝統工芸の意匠、技法等の実物見本や雛形を集成し、分類整理して箱に収めた「百工比照」という資料を残したことにちなんで「百工の間」と名付けられています。新幹線ホームの金箔で飾られた柱だけではなく、待合室に納められているこれらの作品もゆっくり鑑賞してください。

(参考) 金沢駅 伝統的工芸品探訪：

<http://www.pref.ishikawa.jp/shink/kanazawaeki/index.html>

今から40年以上も前に、学会で初めて金沢市を訪れ、駅前の安い宿に泊まった時のこと、目の前でだし巻き玉子を焼いて出してくれた朝食に感激し、なんと文化のレベルの高い街だろうと思いました。もう宿のあったその辺りは再開発されて今では跡形もありませんが、住んでみて文化のレベルの高い街だという印象はさらに強くなっています。石川県は美味しい魚介類やお料理、お酒ではありません。春夏秋冬、それぞれの美しさがあります。是非北陸にお出かけください。